

いますが、その際に一匹の蛇が夢枕に立ち、自らをお祀りするようにと宣託せんたくがあったのでした。それ以後、福井地区の村の人びとの夢にもその白蛇が現れるようになり、彼らはいいつけに従って白蛇をこの土地の神様として祀り大切に守り続けたといえます。

棚倉の仏閣

1

山本不動尊やまもとふどうそん (北山本字小檜沢きたやまもとこひざわ)

山本不動尊は山本地区の最も西側の山筋に位置するお寺です。付近は自然公園に指定されており、あたかも秘境に迷い込んだかのような荘厳な風景を楽しむことができます。

山本不動尊の縁起として、以下のような話が伝わっています。大同2年(807)、真言宗を開いたことだいどうで有名な弘法大師しんごんしゅう(空海くわい)が湯殿山ゆどのさん(山形県)に新しい寺院を創建すべく、東北行脚の旅に出発します。その途中、八溝山に住む悪い鬼を退治するために山本の地において巨石に岩窟を掘り、護摩壇ごまだんと呼ばれる儀式の場を築きました。大師の修行や儀式により悪鬼は退散し、人びとは平穏な暮らしを得たとされています。山本不動尊はこうした平和がいつまでも続くようにと願い建立されたといわれています。



寺の一番奥にある岩窟には、鉄や木で作られた剣がところせましと立ち並んでいます。これは、仏教において悪魔を打ち払う不動明王ふどうみやうおうが手にする剣と同じ形のもので、多くの人びとがその御利益を慕って寄進したものです。

山本不動尊は棚倉藩主からも厚い保護を受けています、例えば、12代棚倉城主松平康爵まつだいらやすたかが開運祈願のために寄進した石灯籠が今も残されています。

2

蓮家寺 (棚倉字新町)

慶長7年(1602)に佐竹氏が出羽国秋田(秋田県)に移った後、棚倉は幕府が直接支配する事になりました。蓮家寺は、幕府の役人としてこの地の支配をまかされた彦坂小刑部元正の家臣、蓮池主水と糟屋弥兵衛が阿弥陀寺を建立し、まもなく開創の施主兩名の名をとり蓮家寺としました。



のちに2代棚倉城主内藤信照による手厚い保護もあり、慶安元年(1648)には徳川幕府3代将軍徳川家光より、寺の財産収入を保証する御朱印状を拝受するなど、城下を代表する寺院として繁栄しました。

寛文12年(1672)の棚倉大火で全焼してしまいますが、優れた靈験を数多く成した伝説的な僧として知られる祐天が幕府将軍の命で派遣され、復興に尽力しました。しかしその後も度重なる火災に見舞われており、現在見ることのできる御堂は明治~大正時代にかけて再興されたものです。

蓮家寺の境内には、内藤信照が寄進したという銅鐘や内藤家一門の墓所、戊辰戦争で亡くなった棚倉藩士らを弔った弔魂之碑などがあります。

また、境内の大ケヤキは緑の文化財(別項参照)に登録されています。

銅鐘 (国認定重要美術品)

蓮家寺の銅鐘は、正保4年(1647)に2代棚倉城主内藤信照が寄進したものです。毎日巳の刻(午前11時)に、念仏を唱える勤行を終える合図として鳴らされました。また、城下や農民の人びとは、鐘の音を聞いて昼食の時間としていたといい、棚倉の「時の鐘」のような役割といえるでしょう。



れんげじさんもん

蓮家寺山門 (町指定有形文化財)



彫刻が美しい2層の山門です。^{あんえい}安永4年(1775)に造られた当初は他の2つの門があり、蓮家寺三門といましたが、明治23年(1890)の火災で今の山門のみが残りました。また、^{へんがら}建立時は紅殻によって赤く塗られた姿であったらしく、今も所々に色が残っています。

正面にある「大泉山」の扁額^{へんがく}は、隣国の水戸藩に仕えた著名な書家である関其^{せき}寧^{せい}によるものです。

3

ちょうきゅうじ 長久寺 (花園^{さわめ}字沢目)



長久寺は^{ほうえい}宝永4年(1707)、5代^{おお}棚倉城主^{おお}太田資晴^{たすけはる}が経済的な後ろ盾となつて、^{みのぶさんくおん}身延山久遠寺(山梨県)より^{えんてんにちこう}遠沾日亨を初代住職として招き創建されました。

山門は、太田資晴が棚倉城二ノ丸にあった南門を寄進・移築したもので、現存する棚倉城唯一の建造物です。また、山門の両側に配置されている^{こんごうりきしぞう}金剛力士像はかつて馬場都々古別神社にあったものです。明治時代初め、新政府によって行われた^{はいぶつきしゃく}仏教排斥運動である^{じょうしんじ}廃仏毀釈を憂いた町の人びとが、密かに長久寺へ運び守ったという逸話が残されています。同じように、かつて馬場都々古別神社の^{じょうしんじ}付属寺院であった^{じょうしんじ}上津寺の本尊であった^{おがさわら}仏像も伝わっています。

境内には、^{おがさわら}小笠原騒動に関わつた^{おがさわら}小笠原栄七郎の墓(別項参照)や、明治～昭和期に活躍した小説家である^{たやまかた}田山花袋(別項参照)が呼んだ歌に関する記念碑などがあります。

おがさわらいしちろう はか
小笠原栄七郎の墓



8代棚倉城主小笠原長堯おがさわらながたかの時代、長堯の弟である小笠原栄七郎が長堯を失脚させようと企てた事件を、「小笠原騒動おがさわらそうどう」といいます。

栄七郎は、家老である来川仁右衛門きたがわじんえもんにそそのかされて長堯の代わり小笠原家の当主になるという野心にとりつかれ、日夜問わず仏の前で一心不乱に兄の長堯を呪い殺そうと祈り続けました。しかしこの悪事は長堯の知るところとなり、失敗に終わりました。

この事件後、仁右衛門らは棚倉から追放となりましたが、栄七郎は兄の恩情により罪に問われませんでした。結局良心の呵責かしゃくに耐えかねてかついには気がふれてしまい、哀れな最期を遂げてしまったと伝えられています。

栄七郎の墓は、長久寺境内に建てられています。

4

じょうりゅうじ
常隆寺ながれ (流字豊都)



常隆寺てんびょうは天平9年(737)、奈良時代に民間レベルで仏教布教を行った僧として有名な行基ぎょうきによって八溝山のふもとにて建立されたとされ、文明元年(1469)に久慈川の田園地帯を一望することができる現在地に移転したといわれています。

このお寺には、開祖である行基の作とされる十一面観音菩薩が伝わっています。別名入沢観音いりさわのんのんともいい、長く風雨にさらされたらしく彫りが不明瞭になってしまった仏像ですが、かなり古いもののようです。また、この像が老人に化けて夜な夜な酒を買いにきたという不思議な伝説が伝わっています。

また、門前には「逆さ桜もんぜん さかざくら」とよばれる桜の木があり、様々な伝説が残っています。その中の1つに、源義家みなもとのもよしいえ(別項参照)がこの地で戦いを行った際、騎馬が深い田んぼのぬかるみに踏み込まないように、目印として桜の枝むちの鞭を逆さまに差したところ、根を張って葉や花をつけたといわれています。

5

 いっしきやくしどう
一色薬師堂 (一色字カナイ神)

一色地区の集落の田園地帯の中、鬱蒼とした林の中にあるお堂です。

一色薬師堂は、鎌倉時代に中国からもたらされた禅宗様という建築様式を基調とした建物で、特に内外部に見られる華麗な装飾彫刻が特徴です。建築細部は八槻都々古別神社の本殿や拝殿によく似通っていますが、少し年代が下る18世紀後期の特徴を示しているとされ、規模や形式がよく整った、江戸時代後期の貴重な仏堂です。



6

 れんだいじ
蓮台寺 (棚倉字古町)

蓮台寺は、寛正6年(1465)に常陸国久慈郡町付村(茨城県大子町大字町付)にある慈雲寺の住職尊瑜僧都らによって創建されたと伝えられています。城下での度重なる大火により資料がほとんどないため、詳しいいわれは不明です。


 どうづくりじぞうぼさつりゅうぞう
銅造地藏菩薩立像 (町指定有形文化財)


蓮台寺に伝来する仏像で、高さ約20cm程の小柄な像です。背面には応安2年(1369)の銘文があり、南北朝時代の作であることが分かります。

愛らしい表情や、下へと流れるように表現された衣の彫りは、見る人に穏やかな印象を与えます。